

革命を根本的に準備すること—プロレタリアートの多数者の獲得—と植民地における運動の意義 注) 17-9と同じ抜萃です。

当時われわれが国際革命を開始したとき、われわれがそうしたのは、国際革命の先鞭をつけることができると信じたからではなく、幾多の事情のためこの革命を開始せざるをえなかったからである。われわれはつぎのように考えた。あるいは国際革命がわれわれを応援してくれるか——そのときにはわれわれの勝利は完全に保障される——、あるいはそうでなくて、敗北したばあいには、それでもやはりわれわれは革命の事業に奉仕することになるし、われわれの経験は他の国々の革命の役にたつであろうという意識をもって、われわれのささやかな革命活動をはたそう、と。国際的な世界革命の支持がなければ、プロレタリア革命は勝利できないということは、われわれには明らかであった。革命前にも、また革命後にも、われわれはつぎのように考えていた。資本主義的にいっそう発展した他の国々に、いますぐにか、そうでないまでも、すくなくともきわめて早急に、革命がおこるのであろう。もしおこらないなら、われわれはほろびるにちがいない、と。このように意識していたにもかかわらず、われわれは、あらゆる状況のもとで、なにがなんでもソヴェト制度を維持するためにすべてのことをした。というのは、われわれは自分自身のために活動しているだけではなく、国際革命のためにも活動しているのだということを、われわれは知っていたからである。われわれはこのことを知っていた。われわれは、十月革命以前にも、また革命の直後にも、さらにブレスト-リトフスク講和の締結のときにも、何度もこの確信を表明した。そして、一般的に言えば、これは正しかった。

だが、実際には、運動はわれわれが予期したほど一直線にはすすまなかった。資本主義的にもっとも発展した他の諸大国には、革命はいまにいたるもまだおこっていない。もっとも、革命は全世界で発展している——われわれはこのことを確認することができるのは喜ばしい——、そして、国際ブルジョアジーが、経済的にも、軍事的にも、わが国より百倍も強力であるにもかかわらず、われわれを絞殺することができないのは、もっぱらこの事情のためである。(拍手)

どうしてこういう情勢が生まれたのか、またそのことからわれわれはどういう結論をひきださなければならぬかを、要綱の第二項で私は考察している。私はさらにこう付けくわえよう、——このことから私がひきだす最終的結論は、われわれの予言した国際革命が発展をつづけているということである、と。だが、この前進運動は、われわれが予期していたほど一直線のものではない。一見して明らかなように、他の資本主義諸国では、たとえば、どんなにひどいものであったにせよ、〔ヴェルサイユ〕講和条約が締結されたあとでは革命をおこすことはできなかった。われわれの知っているように、革命的な徴候は非常に顕著で非常に数多くあったが、——いや、われわれが考えていた以上に顕著で、数多くさえあったが、それでもそうであった。ちかごろ、この数年間のヨーロッパにおけるこれらの革命的徴候が、われわれのおもっていたよりはるかに重大なものであったことをかたっている小冊子が、いろいろ現れはじめている。いまわれわれはなにをしなければならぬか？ いま必要なことは、革命を根本的に準備し、先進的な資本主義諸国における革命の具体的な発展をふかく研究することである。これが、国際情勢からわれわれがひきださ

なければならぬ最初の教訓である。われわれは、わがロシア共和国のためにこの短い息継ぎを利用して、われわれの戦術を歴史のこのジグザグ・コースに適応させなければならぬ。この均衡は政治的に見てきわめて重要である。というのは、まさに労働者階級の広範な大衆、おそらくは住民の圧倒的多数さえもが組織されている多くの西ヨーロッパ諸国でブルジョアジーの主要な支柱となっているのはほかならぬ第二および第二半インタナショナルに加盟している敵対的な労働者組織であることを、われわれははっきり見るからである。私は、要綱の第二項でこのことについて述べているので、ここでは、戦術の問題についてのわれわれの討論のさいにすでにあきらかにされた二つの点にだけ触れればよい。第一には、プロレタリアートの多数者の獲得について。資本主義的に発展した国々でプロレタリアートが組織されていればいるほど、われわれがそれだけ根本的に革命を準備することを歴史は要求しており、そしてわれわれはそれだけ根本的に労働者階級の多数者を獲得しなければならない。第二には、工業的に発展した資本主義諸国における資本主義の主要な支柱は、まさに労働者階級のうち第二および第二半インタナショナルに組織された部分である、ということである。もし国際ブルジョアジーが労働者のこの部分をよりどころとしていないなら、労働者階級内部のこれらの反革命分子をよりどころとしていないなら、彼らはけっして持ちこたえることができないであろう。

ここでさらに植民地における運動の意義を強調したい。この点では、すべての古い党のなかに、第二および第二半インタナショナルのすべてのブルジョア的および小ブルジョア的な労働者政党のなかに、古いセンチメンタルな見解が残存していることを、われわれは見る。彼らは、抑圧された植民地・半植民地民族にたいする同情で心がいっぱいだという。植民地諸国における運動は、いまなお、とるにたりない、まったく平和的な民族運動であるかのようにみなされている。だが、実際にはそうではない。二十世紀の初めから、この点で大きな変化がおこった。すなわち、いまや数千万、数億の人々——事実上、地球人口の圧倒的多数——が、自主的な積極的な革命的要因として現れている。そして、世界革命のきたるべき決定的な戦闘では、始めは民族解放をめざす地球住民の大多数者の運動が、資本主義と帝国主義に鋒先を向け、おそらく、われわれが期待しているよりずっと大きな革命的役割を演じるであろうことは、まったく明らかである。われわれがわがインタナショナルではじめてこの闘争の準備に取りくんだことを強調するのは重要である。もちろん、この広大な分野では困難ははるかに大きい、とにかく運動は前進しており、植民地諸国の勤労大衆、農民は、いまなおおくらせているにもかかわらず、世界革命の今後の局面ではきわめて大きな革命的役割を演じるであろう。(さかんな拍手) 第32巻「共産主義インタナショナル第三回大会」(1921年6月22日～7月12日)「四 ロシア共産党の戦術についての報告 七月五日」P511～514

ポイント

先進的な資本主義諸国では、第一に、資本主義的に発展した国々でプロレタリアートが組織されていればいるほど、われわれがそれだけ根本的に革命を準備することを歴史は要求している。そしてわれわれはそれだけ根本的に労働者階級の多数者を獲得しなければならない。第二に、工業的に発展した資本主義諸国における資本主義の主要な支柱は、まさ

に労働者階級のうち第二および第二半インタナショナルに組織された部分である。もし国際ブルジョアジーが労働者のこの部分をよりどころとしていないなら、彼らはけっして持ちこたえることができないであろうと、述べている。

しかし、現在、日本に危機をもたらしている「産業の空洞化」は、「第二および第二半インタナショナルに組織された部分」の存在さえも脅かしている。よりどころが失われはじめている。この点を前衛党は着目すべきだ。

また、レーニンは、世界革命のきたるべき決定的な戦闘では、始めは民族解放をめざす地球住民の大多数者の運動が、資本主義と帝国主義に鋒先を向け、おそらく、われわれが期待しているよりずっと大きな革命的役割を演じることを述べ、民族解放闘争についての見事なまでの先見性を示している。